

名前：

コンピューターは発明された後、人間の生活がどんどん便利になったし、世界中の各地の情報も簡単に手に入るようになっていいる。そのため、以前には人間にとって必要な活動がだんだん不必要になってきた。たとえば、普段大学生のレポートを書くことは、二、三十年前には必ず図書館に行き、山のような本棚から需要の本をさがし出すのだ。ことによ、て、友達と一緒にどこかへレポートの準備に行くかもしれない。今では、インターネットによ、て、必要な資料を簡単に探すことができるようになって、たので、図書館さえ行かなくとも、レポートを完成するのが普通なことだが、二、三十年前には想像だにしないことだ。

でも、それで、インターネットは出版品の代わりになれるのか。

インターネットの特点是、だれでも自分の思うことを発表することができる。こうして、どんな人でも、正しいかどうか分からない知識

を發表して、その後、また、この知識をだれかに知らせる。それに、インターネットに含まれた知識の大部分は、責任のない知識である。なぜかというと、だれがこのメッセージを作り出すのかが分からない。筆名があっても、その人は本当に存在しているのかとうかがいたくなる。

それに対し、出版品は、雑誌にしても、新聞にしても、みんな深く考えた後書き出した洗練したものである。みんなその道である人で、執筆することに真剣で、それを自分の仕事である誇りを持っている。これはインターネットを超えたすばうしいところである。

人間は、何千年前から紙と結び合い始めたのか。言葉が中に排んでいる本を手で持つとき、その重さは実感がする。出版品じゃなくとも、紙そのものの存在だけ、人間に対する代われられないものだ。私は、この後も紙に対する感情が変わらないと思っている。